夏瀬の森だより

令和三年十月二十五日　第九十三号
田殿丹生神社　宮司　嶋田博文

秋祭り　自粛の中にありがたいお陰様

十月十一日、令和三年度の例大祭を無事に務めることができました。午前九時より宮司が斎主を、禰宜（ねぎ）と権禰宜（ごんねぎ）が助祭を務めて神前式を執り行いました。引き続き発輿の式を執り行い、六年生に担いでもらうはずであった御輿には、御霊をお遷しし、大谷の下の宮まで車によるお渡りを行いました。

行事自粛の中でも各字の宮に拝礼をするお渡りは総代様と共に気持ちよく行わせていただき、氏子様や大幟、そして笛太鼓で迎えてくださる地区もあり皆様のお陰を心から感じた一日でした。

今年も夏前から各方面からご意見を伺いながら準備を進めてまいりましたが、万一の事態を避けるために昨年と同じような形にならざるをえませんでした。みなかんの里を守るためであるとご理解ください。

コロナ禍も昨年とは違って現状ではかなり光が見えてきました。笛や太鼓、獅子舞や子どもたちの元気な声。来年はきっと夏瀬の森に戻ってきてくださると信じています。一度止まったことを動かすのにはかなりのエネルギーと知恵が必要であることはよくわかっております。これからも様々な方のご意見を伺い、お力を頂きながら地域の大切な神社であるためのご奉仕を続けたいと思っております。どうかよろしくお願いいたします。

神様への十二台のお供え

一年で一番大きなお祭りである秋祭りにはお米（白米）、稲穂、御神酒（清酒と白酒）、お餅、鯛、乾物二台、野菜二台、果物二台、塩と水の合計十二台のお供えをします。氏子様や神社で大切に育てた野菜や果物も多く、また白酒は毎年十月七日に神社で仕込み、十一日にはちょうど良い加減でお供えをします。（ちなみにその後はどんどん発酵が進み「どぶろく」へと向かって行きます。）

本来であればお祭りの後にはお供えをしたものを頂いて神様に近づく大切な直会（なおらい）があり、その場には「なれず」しも欠かせません。今年は直会も自粛をしたためになれずしは少しだけ六日に仕込んでお祭りの日から酸っぱくなるまで楽しませてもらいました。来年は、来年こそは賑やかなお祭りを氏神様とと

もに楽しめますようにお祈りいたします。

温かい手作り しめ縄

早朝六時の月次祭の後、総代さん総出で、しめ縄づくりのご奉仕をしていただきました。毎年、みかんの収穫前の十月一日に大小二十五本のしめ縄を一日かけて綯いあげ、お正月前に掛け替えてくださいます。今年も昭和初期の足踏み脱穀機でわらを整えた後に、三、四人一組になって汗をかきながら心のこもった温かいしめ縄を作り上げてくださいました。

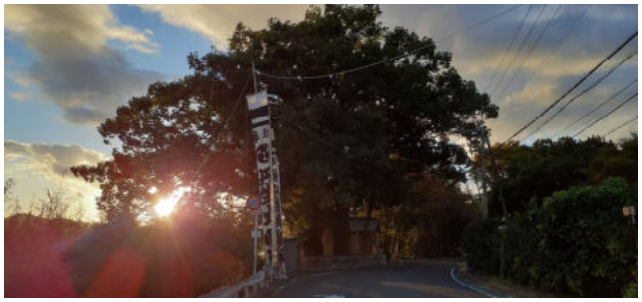
御神像 是非ご覧ください

田殿丹生神社の御祭神である丹生都比売命（丹生大明神）および大名草彦命（高野大明神）の御神像四軀が和歌山県立博物館の創立五十周年記念特別展「きのくにの名宝―和歌山県の国宝・重要文化財―」に県下の名宝とともに展示されます。現在、神社には新たな御霊代をお祀りしておりますがこの御神像は古の昔より田殿丹生神社の御神体としてお祀りされていました。

開会前日の十月十五日には開会式および内覧会が行われ、展示会場では約千年前、もう二軀は約八百五十年前に造られた県下、県外も含めて最古の丹生明神坐像および高野明神坐像ではないかとの解説が学芸員よりありました。

四軀の御神像は今後は博物館で保管されさらに調査が進められる予定です。おそらく長期間にわたり田殿丹生神社にはお戻りにならないかと思われます。長い歴史の中で初めてお姿を見ていただくことについては様々思案するところはありましたが、平安時代から約千年、この御神像をお守りくださった先人の方々の御苦労に報いるためにも是非この機会に氏子様方にはお姿をご覧いただきたく出陳させていただきました。

特別展は十一月二十三日まで和歌山県立博物館にて開催されています（月曜日は休館、二十二日は開館）。六十五歳以上および高校生以下は無料となっています。



七五三詣のご案内

子どもさんの成長を感謝し無病息災をお祈りする七五三詣は、ご都合の良い時にご祈祷させていただきますのでご連絡ください。なお、**十一月十四日（日）の午前九時から午後三時までは**事前のご予約は不要です。ご都合の良い時刻にお越しください。

TEL 五二一二三一七

ホームページへもお越し下さい

http://www7b.biglobe.ne.jp/~tadononyujinjya/